

Ⅱ. 金属工作機械

1. 企業経営動向（需要、生産・設備稼働、企業収益、財務）

(1) 需要

①現状及びその要因

平成13年度の受注額（出典：（社）日本工作機械工業会統計）は7,008億円、対前年度比29.7%減と2年振りの減少となった。内需については、一昨年好調であった半導体製造装置や情報通信といったIT関連産業向けを中心に減少し、3,653億円、対前年度比31.7%減と2年振りの減少となり、外需についても、米国経済の減少や同時多発テロ事件の影響から米国向けを中心として減少し、3,355億円、対前年度比27.4%減と2年振りの減少となった。しかしながら、最近是对前年同月比の下げ幅が小さくなるなど、下げ止まり感が見られる。

②今後の見通し

（社）日本工作機械工業会によると、平成14年に入り内外需ともに下げ止まり感が見られており、年後半には回復することが見込まれることから、平成14年度受注額を7,700億円、対前年度比約10%増と見込んでいる。

(2) 生産・在庫

平成13年度の実産額（出典：経済産業省生産動態統計）は、需要が内外需ともに低迷したため、6,746億円と対前年度比22.1%減と2年振りの減少となった。

在庫（出典：経済産業省生産動態統計）は、需要が低迷する中、生産調整が進められ、在庫は減少傾向にある。

(3) 企業収益

平成13年度は、需要が内外需ともに減少したため、ほとんどの企業が減収減益となり、主要企業9社では8社が減収となり、赤字決算となった。

（社）日本工作機械工業会調査の「工作機械工業経営状況調査—2001年度上期—」によると、調査対象22社の合計売上高が前年度比28.0%減となり、営業利益率▲0.5%、経常利益率▲0.9%となった。

2. 設備投資動向（13年度見込み、14年度計画）

(1) 平成13年度実績見込み

平成13年度は、調査企業18社合計で102億円となった。これは112億円であった平成12年度に比べ8.8%減である。

目的別では、合理化・省力化投資（24.1%）、研究開発投資（22.0%）、更新・維持・補修投資（22.0%）及び生産増強投資（10.0%）のウェイトが高くなっている。

(2) 平成14年度計画

平成14年度計画は、調査企業16社合計で106億円と計画されている。こ

れは100億円であった平成13年度に比べ5.6%増である。

目的別では、合理化・省力化投資、研究開発投資、更新・維持・補修投資、生産増強投資を中心とした構成には大きな変化が見られないが、研究開発投資が大幅に減少したのに対し、更新・維持・補修投資が増加している。

3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

(1) 長期資金運用動向

平成13年度は平成12年度に比べ、需要低迷により取得設備投資所要金、投融資額及び短期資金とも減少した。

平成14年度計画は平成13年度に比べ、取得設備投資所要金及び投融資額が増加し、短期資金が減少する計画になっている。

(2) 長期資金調達動向

平成13年度は平成12年度に比べ、内部資金が前年並みであるのに対し、借入金の償還が増加している。

平成14年度計画も内部資金が増加し、借入金の償還は減少する計画になっている。

